



庶民の会 林田 勉 議員

▼島原物産の発信基地「道の駅島原」の構想は

Q 高規格道路の整備が進み、新幹線も長崎まで開通すれば観光客がふえると思う。農産物販売や子供たちの販売体験、体験農園など、地域の情報発信基地として道の駅を設置してはどうか。

A 構想としては非常に関心があるが、設置するには生産者やJAなどの連携や、すでに沿道でそういった施設を運営されている方との協議も必要になってくると思う。

▼島原薬草「産学金官」連携プロジェクト事業について

Q 薬草の産業化として、企業や大学までを含めたプロジェクト事業を行うようだが、コーディネートはどかが担当するのか。

A 企業誘致と薬草の商品化は、しばらくブランド営業課が担当するが、オリジナル島原として、他の部署と連携しながら行いたい。

Q 進出企業の状況はどうか。
A 薬草に歴史と実績のある中堅の製薬会社、九州にある大学の医学部教授、中国の博士、九州で実績のある薬剤師の方々などと前向きに調整している。

▼しまばらハッピーライフ応援事業について

Q どのような活動を行っているのか。また、実績についてはどうか。

A 結婚から妊娠、出産、育児までの切れ目のない支援を行うことを目的に、商店街の空き店舗を活用し、ワンストップの相談窓口「ハッピーカフェ」を開設している。日々の相談業務や各種教室を開催しており、窓口への来所者の総数は五百五十七名、そのうち相談者が百三十四名、結婚相談による登録者が男性十八名、女性八名であり、そのうち三組がハッピーカフェにおいてお見合いを行った。

▼現状と今後は

Q 行政放送がデジタル化に移行したが、どのように変わったのか。

A 四月からの防災行政無線は、火災や気象情報、避難勧告など緊急性の高い情報は屋外スピーカーと室内受信機で放送し、イベントなどの緊急性の低い情報は、室内受信機のみ一日三回定時に放送している。今後、市民の意見を聞きながら運用を検討したい。



実践クラブ 生田 忠照 議員

▼元気なお年寄りをつくるしか道はない

Q 住みなれた自宅や地域で暮らし続けるために必要な地域包括ケアシステムとはどういうものなのか。

A 介護状態になっても住みなれた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供するシステムであり、高齢者の在宅生活を支えるために必要なシステムである。

Q 健康寿命が長い県では、バランスのよい食事への取り組みを推進している。本市も食事は豊富にあり、毎日の食事に地元食材を使う取り組みをしてはどうか。

A 現在策定中の食育推進計画の中でも、地産地消や健康のために地元食材を使った取り組みを盛り込んでいる。

Q 身体に必要な不可欠な栄養素を含んでいるエゴマ油が注目されているが、ビジネスモデルとして研究開発を検討してはどうか。

A 大学の関係機関と連携して薬草の効能の研究や栽培に取り組み計画をしているが、その中でどのようなことが

できるのか検討してみたい。

Q 高齢者と若者の住み替え施策を提案してきたが、どのように理解しているのか。

A 市営住宅で生活している高齢者の住宅を生活に便利な街なかに整備して移り住んでもらい、学校近くの市営住宅には、子育て世代に移り住んでもらう政策の提案だと認識している。

Q 平戸市では特定健診の受診率向上を推進したことで医療費の伸びが止まったということだが、島原市でもこのような取り組みに力を入れてはどうか。

A 二十七年程度からいきいき健康ポイント制度を展開していくので、受診率向上につなげていきたい。

▼市庁舎建設と中心市街地について

Q 市庁舎の設計業者も決定したが、市民の意見は、どのような方法で聞くようにしているのか。

A 市民が利用しやすい庁舎とするため、ワークショップなど市民の意見を聞く機会を設けている。

【その他の質問項目】

◇人口増の早道となる地元企業支援策を問う

◇新年度当初予算案について